

あ な た と 市 政 を む す ぶ



広報
No.168

かんおんじ

10

2019 / 令和元年

October



特集

母の島、伊吹島

目次

◎第9回観音寺国際音楽フェスティバル	5
◎2019日本学生ドライアスロン選手権観音寺大会	8・9
◎令和2年度 新入園児募集	19
◎住民票やマイナンバーカードに旧姓(旧氏)が併記できます	20

特集 母の島、伊吹島

瀬戸内国際芸術祭2019秋会期が9月28日から開催中です。芸術祭を支える女性たちと、作品が展示される「出部屋（伊吹産院）」の歴史を紹介します。



お弁当作りに携わる島のお母さんたち。昔使っていた大漁旗で作ったのれんを前に。後列左から時計回りに、伊瀬朝美さん、富山真知子さん、三好隆子さん、大川君江さん、伊瀬輝美さん、三好智代子さん、篠原乃婦子さん、松本ミツルさん、三好延子さん。他にも、協力してくれるお母さんたちがたくさんいます。

島内の調理室は、楽しそうな笑い声とともに、カラッと揚がった天ぷらの香ばしい匂いや出来たてのいりこ飯の湯気でいっぱいでした。

島のお母さんたちが芸術祭で販売する「うららの伊吹島弁当」。小豆島の創作料理店の監修のもと、この時季にできる伊吹島の郷土料理の中からメニューを決め、試作を繰り返し返してきました。例えば「ふき大根」は、そぎ切りにした大根を、いりことみそで混ぜたもので、忙しい漁師たちが昔から食べていたものです。

お弁当はとてもおいしそうですが、「まだ改善するところは、よっけある。魚の塩加減とか、野菜の大きさとか」とお母さんたちは口々にアイデアを出し合います。水曜日と木曜日を除き、会期中は毎日お弁当作りに携わる皆さん。「芸術祭で若い人が来たら気分も若くなる。大変だけど、お弁当作るんは楽しいよ」

立ち会ってもらうこともありません。

北浦港と瀬戸内海が一望できる見晴らしの良い高台に、女性たちが出産前後の約1カ月間、家族と離れて共同生活をした産子屋（通称 出部屋）がありました。

400年以上前、長七という人が土地を提供して建てたのが始まりといわれ、以降改築・増築を重ね、昭和31年には診察室や分娩室、炊事場、洗濯場、食堂が出来るなど、近代化されました。ここに来ると、女性たちは日ごろの家事や労働から解放され、出産後の身体を休めながら過ごすことができました。日ごとに成長して行く我が子を眺めながら、みんなでおしゃべりしたりご飯を一緒に食べたり。初産の人は子育ての不安を先輩のお母さんに相談し、出産時に



出部屋入口に残る門柱



上・出部屋で一緒に過ごした人を「出部屋友達」と呼び、親子共に終生仲良くするという
下・出部屋の窓から、北浦港と穏やかな瀬戸内海を眺める
写真：緑川洋一

れ、現在は礎石と門柱を残すのみです。

出部屋跡地にアート作品を

今回の芸術祭では、出部屋跡地に、栗林隆さんが「伊吹の樹」という作品を展示。生命の誕生の地にふさわしく、子宮や産道を表現した作品で、外側は地元産ヒノキを、内側は鏡を使用し、万華鏡のような造りです。樹の中を通り抜けることができ、母の胎内からこの世界に出ていくことを意味していると栗林さんは話します。

芸術祭の作品を通して、出部屋という場所のこと、母子共に健やかな成長を見守ってきた伊吹島の歴史を感じてみてください。

出部屋の跡地に、生命がテーマの作品を展示

瀬戸内の島々にはこれまで行ったことがなく、今回芸術祭に参加するに当たり、初めて訪れたのが伊吹島でした。他の島々も見に行きましたが、自分が作品を置くのは伊吹島だと思いました。また、母方の実家が観音寺市にあったと知り、運命というか必然的なものも感じました。

私は自分のルーツや生死を常に考えて生きている人間なので、出部屋という生命を象徴する場所で作品を展示できるのは光栄なこと。9月6日から29日まで東京のアートフロントギャラリーで4年ぶりに個展を開催していますが、そのタイトルも「出部屋」です。

今、世の中は混沌としています。作品「伊吹の樹」を通して「生まれて死ぬ」という根本的なことを考えてほしいと思います。

Interview



アーティスト 栗林 隆さん 長崎県出身、武蔵野美術大学客員教授。インドネシアを拠点に活動する。

うららの伊吹島弁当



(内容は変更になることがあります)

島のおいしい郷土料理や家庭料理を詰め込みました。魚はもちろん伊吹島の漁師さんが捕ったもの。素朴で温かいお弁当を召し上がれ。

- メニュー
ふき大根、小魚のきんぴら、タイの塩焼き、釜揚げいりこの天ぷら、いりこ飯、うどん粉餅（予定）
- 平日40食、休日80食限定
※水曜、木曜日はお休み
※10人以上は要予約
- 場所 伊吹公民館前
- 料金 1,200円（税込）
- 予約 うららの台所
☎080-2994-3115



会期中の休日は、観音寺総合高等学校の生徒がお手伝い！

伊吹島の作品

伊吹島では、栗林隆さんをはじめ、インドネシアを拠点に活動するアーティスト3組が作品を展示します。アート作品は全6作品です。



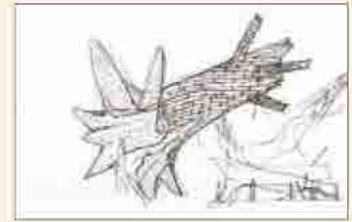
壁 エコ・ヌグロホ

空き家の中に新たな「壁」を立て、境界を感じさせるように空間をつくることで、人々が自分自身のためにどのように境界を築くのか。人と社会、国家の関係に疑問を投げかける作品。



パサング ふたつのものでつたつの中に メラ・ヤルスマ ニンディティヨ・アディプルノモ

「パサング」とはインドネシア語で潮流、ペアの意。漁師が漁船に持ち込んだお守り「ふなだまさん」を手のひらに載せた様子などから発想を得た作品を制作、設置する。



伊吹の樹 栗林隆

出部屋跡に設置される生命の樹。樹は子宮を表し、地面と樹の間を擦り抜けることは母体からこの世界に出ることを意味する。本作のほか、手作り屋台「ヤタイトリップ」プロジェクトとしてインドネシアの食の提供も準備中。

会期中のイベント情報

島膜 Ibuki 芸術祭公式イベント

島は膜であり、生命は海の縁取りを行き来し育まれ続ける。このテーマで、出部屋跡地や墓所など島内各所を巡り、いりこの加工場で新しい命の予兆＝出産を象徴したパフォーマンスを行う。

日時 10月26日(土)、27日(日)
午後2時～午後3時

場所 (有)富山水産

定員 各50人

料金 前売り 1,000円

当日 1,500円

小中高生 800円

出演 jiku



伊吹島の宝

「木と音の会」代表の泉谷貴彦さんと伊吹小・中学生による手作り楽器の演奏や詩の朗読会

日時 10月1日(火)

午後1時40分～午後2時25分

場所 伊吹小・中学校体育館

イリコ庵茶会

日時 会期中毎週水曜(10月30日を除く)

午後1時から30分ごと、各回13人

整理券は旧伊吹小学校の受付で配布、先着順

場所 イリコ庵

島の音楽会

アコーディオンとスティールパンの演奏会

日時 10月30日(水)午後7時～

31日(木)正午～

場所 伊吹公民館

出演 田ノ岡三郎、伊澤陽一



よるしるべ2019

陶芸の明かりや竹あかりなどを道しるべに夜のまち歩きを行う。

日時 10月25日(金)～27日(日)

11月1日(金)～3日(祝・日)

午後6時～午後9時

場所 ハイスタッフホール

周辺市街地



よるしるべガイドツアー

日時 10月26日(土)・27日(日)

11月2日(土)・3日(祝・日)

午後7時出発(午後6時45分集合)

集合場所 ハイスタッフホール

料金 1,000円(保険料など含む)

定員 各20人

申し込み先 観音寺市観光協会

☎24-2150

旅のお供に!

伊吹島に行く前に

- 坂道が多いため、歩きやすい靴で行きましょう
- お釣りのないよう小銭の準備をしましょう
一部有料作品(300円)があります。
- ごみはできるだけ持ち帰りましょう

- 伊吹島マップを参考に
島内の作品展示場所、飲食店やモデルコース、船の時間などをまとめています。市役所や各支所、観音寺港などで配布しています。



問い合わせ先 商工観光課 ☎23-3933